

百人一首ゆかりの地 福知山

「来ぬ人を まっほの浦の 夕なぎに

焼くやもしほの 身もこがれつつ」(97)

(いくら待っても来ない人を待ち続け、松帆の浦の夕なぎの時に

焼く藻塩のように、私の身も、恋こがれています。)

(鎌倉中期1232年頃)

権中納言定家

日置・高倉神社(夜久野)



藤原 定家(権中納言定家)

小倉百人一首の編者(1235)

百人一首は日本で一番永く、

しかも広く愛唱されている歌です。

定家の歌碑

『朝日さす 日置の里を ながむれば

卯の花ひらく なつかしきかな』

健保3年(1215)頃、定家が天橋立に行く時に

ゆかりの地である日置高倉神社に立ち寄り

詠んだ歌とされている。

御霊神社



平安舞殿 (御霊神社の前にある)



紀貫之の六歌仙絵馬(御霊神社)



1859年(安政6年)8月奉納される (76cm x 191cm x 4.2cm)